

令和6年度 自己評価報告書 -要約版-

令和7年3月31日現在

日本鍼灸理療専門学校

(令和7年7月31日作成)

項 目

基準1	教育理念・目的・育成人材像	基準6	教育環境
基準2	学校運営	基準7	学生の募集と受入れ
基準3	教育活動	基準8	財務
基準4	学修成果	基準9	法令等の遵守
基準5	学生支援	基準10	社会貢献・地域貢献

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校法人花田学園は、昭和 31 年（1956 年）の創立以来 65 年以上にわたり、『優秀な治療家の育成』を教育目標とし、鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師のリーダーたる人材の養成に心血を注いでいる。また、『豊かな人間性と優れた学・技を兼ね備えた医療人を育成する。』を教育理念とし、良き医療人である前に、良き社会人であることの必要性を説いている。</p> <p>教育理念、教育目標については、従前よりの広報活動（学校案内・HP・学校説明会など）において、周知・公表されているが、周知内容・方法等を吟味し、更に周知を図りたいと考える。</p> <p>育成人材像については、基本的な要素は変わらないものの、社会情勢の変化に伴う様々な問題を明確に捉え、変化に柔軟に対応できる人材の育成に取り組んで行くことが課題である。</p>	<p>社会情勢の変化や医療・健康に対する社会のニーズを踏まえ、育成人材像について基本方針は変えず、柔軟な対応を行っていく。</p> <p>本校では生命の本質・個々の人間性の尊重を重視し、全人的医療に取り組むことを目標としている。また将来的なことを含め、特に施術を行う上で標準となる西洋的診察及び東洋的診察法の幅広い修得を軸足として、現代のおよび古典的治療法の習熟、パルスを用いた鍼治療のみならず超音波診断装置を使用した鍼治療等にも力を注ぐことを方策としている。</p> <p>現在検討しているアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの内容を深めていく。</p>	<p>東京有明医療大学と緊密に連携し、大学教員による講義を受講できることや、卒業生が活躍する臨地実習先を確保するなど、学生にとってより良い環境づくりに努めている。</p>

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の運営方針は、法人の事業計画の中に明記している。寄附行為や組織規程等に基づき、理事会、評議員会をはじめ、組織運営は適正かつ円滑に行っており、専門学校の個別案件や課題は、運営会議（校長、教務部長、副教務部長、教務主任）で協議・検討している。引続き、課題やテーマ毎に委員会やプロジェクトチームを弾力的に組成し、早急に問題解決を図る体制を構築していく。</p> <p>人事関係の規程は適切に整備し運用しているが、引続き法改正などの状況を把握し、雇用制度等に注視する。また、導入した人事管理システムの更なる運用を進めていく。</p>	<p>花田学園中期計画に基づき、本校における具体的な中期計画(PDCA サイクル)が作成され、列挙された課題、改善点に優先順位を付け、着実に目標達成を果たしていく。</p> <p>学生管理システムの運用については、更なる機能の活用を試み、引続き Web ポータルサービス（出欠・成績管理や掲示板等）の導入及び教育DX等による改善も検討していく。</p>	<p>担任を通じて学校と学生、教員と学生の連絡が緊密にできるような体制をとっている。</p>

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育課程編成については、臨床家である兼任講師を含め、教員の意見聴取を行ったうえで取りまとめ、養成施設の認定規則や指導要領に基づき適正な内容となっている。3年間における教育到達レベルを踏まえ、1年次は基礎および専門基礎分野、2年次は専門基礎および専門分野を、そして3年次は臨床に向け専門分野と実技及び臨床実習を組み立て、外部実習を主とした授業構成とするとともに国家試験を見据えた対策も行っている。</p> <p>成績評価の基準や既修得科目の認定等の制度については、学則施行細則に規定し、学生にも明示したうえで適切に運用している。</p> <p>教員としての資質向上に向け、学校協会の教員研修会参加のほか、附属鍼灸院での臨床や、研究班での研究活動に学会での発表等、日々研鑽に励んでいる。</p>	<p>授業評価については、学生からのアンケート調査をベースにし、今後評価実施体制を構築していく。</p> <p>基礎科目を中心に、非常時等の有事における対応として、オンライン授業の環境整備をすすめていく。</p>	<p>当法人内には本校のほか、柔道整復師の養成施設である「日本柔道整復専門学校」と鍼灸師、柔道整復師および看護師養成の課程を持つ「東京有明医療大学」の3つの学校が設置されている。</p> <p>本校には本科（鍼灸あん摩マッサージ指圧科）と専科（鍼灸科）の2つの学科があり、またそれぞれの学科に昼間部と夜間部があることから、学生の年齢層や経歴は幅広いものがある。</p> <p>また附帯教育として、アスレティックトレーナー専攻科があり、(公財)日本スポーツ協会公認のアスレティックトレーナーなどの資格取得を目指す環境も備えている。また、当該専攻科については、次年度より新カリキュラムに移行するために、届出を行った。(令和7年度受講者より、2年生は旧カリキュラムで開講)</p>

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生が専門知識を生かせる鍼灸院や医療関連分野へ就職している。また附帯教育のアスレティックトレーナー専攻科で学び、アスレティックトレーナーとして活躍する者も増えている。</p> <p>卒業後に国家試験の合格発表があることから、就職活動の開始時期が遅くなる傾向にある。卒業前3年次に進路に関するアンケート調査を行い、就職状況を把握しているが、卒業後に進路が決まることも多く、最終的な結果が把握できていない。</p> <p>本校は全国的にみても多くの学生数を有している中で、新卒者の国家試験合格率は全国平均を上回っている。既卒者の合格率は低水準に止まっており、優先順位として成績不振者等に対する補講等をきめ細かく行うことで、引き続き合格率100%を目指していく。</p> <p>約1万名の卒業生を輩出しており、様々な分野で活動が報告されている。</p> <p>就職担当の専門者の配置を検討する。</p>	<p>同窓会等を通じ、卒業生の開業状況を把握し、本校ホームページにおいて紹介することで、卒業生との繋がりを維持するとともに、学生の就職先の確保にもつなげたい。</p> <p>就職担当の専担者を配置することで、卒業生の就業状況も把握し、進路指導に役立てていく。</p> <p>学習意欲が低下している学生を、早期に見出し、フォローできるような仕組みを構築し、休・退学者の減少を図る。</p>	<p>研究班やクラブ活動に参加することで、鍼灸・あま指の実践力や健全な身体の形成など、更なる質の向上が図られ、東京大学や筑波技術大学等で、第一線の臨床に携わるなど、様々な分野での活躍を後押ししている。</p> <p>附帯教育のアスレティックトレーナー専攻科は現在22期目に入り、約540名の修了生のうち約270名が日本スポーツ協会公認のアスレティックトレーナー資格を取得しており、その実績はトップクラスのものとなっている。</p>

基準5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校では、クラスにおいて入学から卒業までの3年間を一人の教員がサポートする担任制を採用している。担任は、学生の成績、出席管理はもとより、生活指導や学費、心身に関する諸問題、卒後の進路・就職に関しても相談に乗り、親身に対応している。成績不振者や欠席が多い学生については教務部長による面談や、必要に応じ保護者・保証人と連絡を取り対応を行っている。</p> <p>成績優秀者に対する学費支援を実施しているが、学校独自の奨学金制度は無く、公的な奨学金や教育ローンの他、教育訓練給付金等の利用に関し、きめ細かい相談体制を敷いている。また高等教育の修学支援制度の対象校となっている。</p> <p>卒業生に対し、臨床技術研修講座や附属鍼灸院での臨床研修の場を提供しているほか、同窓会においても同窓会報の送付や同窓会開催時の学術研究会等を実施している。</p>	<p>専門の就職担当部署の設置を検討するとともに、求人情報の管理方法も見直しをしていく。</p> <p>健康管理体制においては、将来に対する不安や周囲との人間関係に悩みを抱える学生も少なくなく、担任をはじめとして問題解決を図っているものの、教員には話しづらいと考えている者もあり、専門家（臨床心理士）を配置した相談窓口の設置を検討していく。</p>	<p>本校では夜間部を設置しており、社会人学生の受け入れ体制も整っている。</p>

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校校舎は竣工後 27 年が経過し、順次設備の更新が発生してきており、教育用機器備品を含めた計画的な更新計画が必要となってきた。また、附属臨床施設が入居するビル（築 45 年超）の抜本的な対応も課題となっている。</p> <p>附属鍼灸院については、当初の計画通り 4 床の増床を図り、当該年度稼働に至った。</p> <p>危機管理規程や防災管理規程等は整備されており、学生に対しては、オリエンテーション等で、避難場所の確認、防災設備や緊急時の対応について周知を図っている。また、消防や警察による講義を開講し、防災・防犯の意識向上に努めている。</p>	<p>本校の中期計画 (PDCA サイクル) に準拠し、『中・長期設備更新計画』を作成し、計画的な対応を引き続き行っていく。</p>	<p>厚生労働省認定の養成施設であり、法令で定められた施設・設備を遵守している。平成 9 年に竣工した新校舎は新たな基準による耐震構造、防火対策が確立している。</p> <p>校舎は、本校と日本柔道整復専門学校の 2 校が以下のとおり区分し使用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 階 職員室（共用） 2 階 日本柔道整復専門学校 3 階 本校（図書室他一部共用） 4 階 本校 地下 1 階 日本柔道整復専門学校（柔道場） <p>東京有明医療大学と共同で企画する海外研修（ボストン他）に希望者は参加できる制度あり</p>

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>専修学校各種学校協会の倫理規定に従い、学生募集活動を行っている。入学選考手続きも募集要項に記載されているとおり、適正に実施している。</p> <p>募集活動は、学校説明会をはじめに、授業見学会・施設見学会・体験入学会等を実施し、来校の難しい方についてはリモートや電話での対応をした。</p> <p>ホームページは、昨年のリニューアルに加え、更にユーザーに分かりやすい動線を意識し制作した。また、動画配信にも引続き注力し、昨年度より更に再生回数を増やすことができた。</p> <p>HANADA Life up JOURNAL (blog) を9月より開始し、学事等の学校の内容、教員・卒業生紹介や季節に応じた健康に関するコラムなどの情報を学内外問わず配信することができた。</p> <p>大学への入学志向が年々増加する高校生へのアプローチは難題であるが、高校訪問やガイダンス等に参加し、高等学校との繋がりを継続させるよう心掛けた。</p> <p>広報が起因となったかの検証はできていないが、前年度より入学生は増加の結果となった。引続き学生確保につながる広報活動を模索していく。</p>	<p>募集活動については、以下の内容に注力し改善を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○競合他校の情報収集（入学試験や学納金、入学手続き等）を行い、検討・改善を図る ○入学希望者のニーズに合わせた情報の配信を検討し、改善を図る ○OBによる受験生紹介制度の検討を進める。 ○大学入学志向にある高校生に対する、早期アプローチ（高校1・2年生への）方法等の検討を図る 	<p>本学園の日本柔道整復専門学校、東京有明医療大学の在學生、卒業生を対象とした学内入試制度（学納金に関する特典あり）を設けている。</p>

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>少子化の影響もあり、受験者数は年々減少してきたが、当該年度の受験者は増加した。休退学等による学生数の減少も財務状況に大きく影響するため楽観視はできない。</p> <p>設備更新や教育機器の入替需要を考慮し、中期計画並びに中期財務計画の遂行状況の把握が必須である。</p> <p>予算編成は、経理規程に定められた手続きに則り作成しており、補正措置も適正に行っている。</p> <p>監事監査および公認会計士並びに内部監査による三様監査が適正に行われているほか、私立学校法に基づき、財務情報等をホームページに公開している。</p>	<p>収入源である学生生徒納付金の確保のために、学納金の見直し、広報戦略の徹底、また人件費を含む支出等の抑制を検討し改善を図る。</p> <p>また、今後の設備更新や教育機器の入替需要を考慮し、本校の中期計画（PDCA サイクル）を毎年見直す。その計画に基づく中期財務計画の遂行状況、により、将来に備える検討が必要である。</p>	

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校教育法、専修学校設置基準、養成施設認定規則等を遵守し、適正な運営を行っている。</p> <p>また、個人情報保護に関する規程を整備し、適切な運営を行っているが、インターネット利用に関するセキュリティ対策の強化を図る。</p> <p>自己評価ならびに学校関係者評価については、規程に基づき適切に行い、評価報告をホームページ等で積極的に公開している。</p> <p>令和7年4月施行の改正私立学校法に伴う寄附行為の変更ならびに育児介護休業法に伴う規程の改正を行った。</p>	<p>個人情報保護法の改正等を踏まえ、規程並びに運用管理に注力していく。</p>	

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関連業界団体の研修会や総会等に会場を提供するほか、新たな団体への貸出をしたことにより、各団体の活動を側面より支援している。</p> <p>地域・社会貢献活動としては、町内会の催事に積極的に参加できた。今後も情報収集をし、地域・社会貢献に注力する。</p>	<p>教職員だけでなく、学生を交え学校一体となり、地域貢献に邁進するよう検討する。</p>	

令和6年度重点目標達成についての自己評価

令和6年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>引続き、教育理念である『豊かな人間性と優れた学・技を兼ね備えた医療人を育成する』ために、附属鍼灸院や提携医療施設を活用し、東洋医学と現代医学の理解を深めるとともに、多様化する医学・医療への価値観に対応できる臨床的能力を修得させていく。併せて、人格形成の教育を教育目標とする。</p>	<p>公益社団法人東洋療法学校協会、公益財団法人東洋療法研修試験財団、公益社団法人全日本鍼灸学会をはじめとする教職員の資質向上のための研修会や研究会へ積極的に参加し、少しでも学生に還元ができるよう取り組んできた。また、自己点検自己評価を充実させるとともに、学生からの要望や教育環境の近代化に伴う環境整備を充実するようにしている。</p>	<p>医療技術の発展・進歩及びITの活用等を含め、今後改善しなければならず、ことにインターネットや3D画像、動画を利用した授業など、様々な教育ツールが必要となってきたことに対応できるよう取り組んでいく。</p> <p>災害時等の緊急状況を勘案し、リモートでの対応が可能な環境の整備や、教育DXの導入を検討する必要がある。</p> <p>豊かな人間性を高め、同時に一人一人に丁寧に向き合える医療人を育成するべく、これまでの70年の歴史で培ってきた対面授業の重要性を再度確認・認識することも重要である。</p> <p>はりきゅう及びあん摩マッサージの臨床実習施設の拡充を図る。</p>